



インダスタイル独特の縫製部分の縫製。細長い生地が手首から腰まで1枚でつながっている。長い生地をカーブを描きながら縫っているため、のびのびと動くことができる



右／ドレス感のあるロンドストライプ。ボタンダウン、ワイドカラー、襟とカフスが白生地のクレリックはいずれも1万5000円～（税別）
左／山崎直子宇宙飛行士が着用したボロシャツ。動体裁断技術によって無重力の中での作業時にも着崩れず、襟がまくり上がりにくい。彩色は藍染（ジャパンブルー）

035



特許も取得した結ばない風呂敷「OTUTUMI」。もともとインダスタイルの包装用に開発したものだが、OTUTUMIが欲しいという声が多く集まり、単店で販売することになった。

はどんなパッケージがいいか考え、風呂敷が閃いた。外国人にも結べるよう穴を1カ所開け、そこに風呂敷の一端をねじって通して留める新しい風呂敷を開発した。
インダスタイルのシャツをこの風呂敷で包んで、日本の魅力ある商品を世界へ発信する「おもてなしセレクション2015」に出品したところ、金賞を受賞。ところが審査員を務めていた外国人からシャツ以上に新風呂敷が評判になり、この「OTUTUMI」というブランドで販売を始めることになった。
インダスタイルとOTUTUMI、丸和織維は技術とデザインで2つの独自ブランドを創り上げた。



ボロシャツなど普通のニット製品はネクタイを締めると襟がよれてしまう。しかしインダスタイルの襟は裁断と芯地を工夫しているため、ネクタイを締めてもしっかりと普通のドレスシャツと変わらない



左／インダスタイルは生地を人間の体に合わせてカーブを描いて裁断する
下／通常のシャツは胸を上げると服全体が持ち上がり裾がパンツから出てしまうが、インダスタイルは裾があまり上がらない



034

インダスタイルの開発の経緯

- 2009年5月 「ドリームプラン」スタート
※自社製のボロシャツを日本人宇宙飛行士に着てもらおう！プロジェクト
- 6月 機能系視覚デザイナーの中澤愈氏と共同でドリームプラン実現に向け「動体裁断」のボロシャツ開発に取り組む
- 2010年4月 JAXAの一般公募に応募し、採用が決まる。山崎直子宇宙飛行士が丸和織維工業製のボロシャツを宇宙ステーションにて着用
- 5月 自社ブランド「INDUSTYLE TOKYO」でドレスシャツ開発スタート
- 2011年3月 第1号が店伊勢丹新宿店 men's 館で販売スタート
- 12月 東京都墨田区による「すみだモダン」に認定
- 2014年10月 「YOHJI YAMAMOTO (ヨウジヤマモト)」が「INDUSTYLE TOKYO」とコラボレーションで新シリーズを発表
- 2015年2月 「おもてなしセレクション」金賞を受賞、海外へ紹介される
- 2016年3月 結ばないラッピング「OTUTUMI」を高島屋で発売
- 5月 「OTUTUMI」が伊勢丹新宿店グローバルグリーンキャンペーンに参加



インダスタイルのドレスシャツを手にする伊勢丹・常務。「自分たちのボロシャツを宇宙飛行士に着てもらおう」と“大風呂敷”を広げたことが、今のインダスタイルなどの成功につながっている

オリジナルのOTUTUMIに包まれたヨウジヤマモトデザインのドレスシャツ。ヨウジヤマモトとインダスタイルのロゴが並べられたダブルネームで販売されている

